

研究 主題	学習問題の解決に向けて自ら資料と向き合う児童の育成 ー社会的な見方・考え方を働かせる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通してー
----------	---

第6学年社会科学学習指導案

指導月日 令和6年10月24日

所属校名 東松島市立宮野森小学校

氏名 高橋 大地

1 小単元名「戦国の世から天下統一へ」（東京書籍 新編新しい社会6歴史編）

2 小単元の目標

(1) 各種資料で調べたことを基にして、日本とヨーロッパ諸国との関わりや、戦国大名が領地内を統治し、天下統一を目指すための政策や法令等を整備したことを理解することができる。

〔知識及び技能〕（2）ア（カ）

(2) 天下統一に向けた戦国大名の取組について問いを見いだし、一つ一つの社会的事象について考えたり、複数の社会的事象を関連付けたりすることを通して、戦国大名の取組の目的や意味について考えたり表現したりすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕（2）イ（ア）

(3) 戦国大名の取組について、予想や学習計画を立てたり、自らの学び方を振り返ったりして、学習問題を解決しようとする。

「学びに向かう力、人間性等」

3 小単元観

本小単元は、小学校学習指導要領社会編の第6学年内容（2）ア（カ）及びイ（ア）に該当し、主にキリスト教の伝来やヨーロッパ諸国との南蛮貿易、楽市・楽座や検地、刀狩といった政策や法令等の整備などの社会的事象について調査し、戦国大名たちの戦国の世の統一を目指した取組について学習していく。

1467年に始まった応仁の乱により、室町幕府は全国的な影響力を失い、全国各地で大名同士が互いの勢力を争う戦国時代を迎える。戦国時代の期間としては、諸説あるが、15世紀半ばからの約100年間とされている。

なお、児童が使用する教科書では、戦国時代から安土桃山時代を含めた約150年間を「戦国の世」として扱っているため、本小単元で扱う期間は、教科書に習って約150年間とする。

戦国大名として挙げられる数多くの武将には、それぞれ独自の取組や人柄を感じさせる逸話などがあり、戦国大名や戦国時代を題材にしたテレビドラマや書籍、アニメ、ゲームが多く作られ、児童にとっても歴史上の人物の中でも身近な存在であると言える。中でも、織田信長と豊臣秀吉の二人は、戦国大名たちが群雄割拠する世の中の統一に大きな役割を果たした武将とされている。

本小単元は、織田信長と豊臣秀吉の二人を中心に、それぞれの戦国大名が行った取組を調べ、それらを関連付けたり総合したりすることで、戦国の世が統一されるに至るまでの流れを捉えることができるものである。また、それぞれの戦国大名が行った取組の目的や意味を考えることを通して、現在の政治等と比較しながら、統治していく上で必要なことについて、自分なりに考えることができるものである。

4 児童の実態〔第6学年1組28名（交流学級児童1名を含む）〕

小単元の学習を積み重ねる中で、児童には資料から必要な情報を読み取る力が少しずつ身に付いてきた。また、学習問題の解決に向けて、自ら必要な資料を探したり、資料から読み取ったことを基にして、一つ一つの社会的事象の意味について多面的・多角的に考えたりすることもできるようになっ

てきた。例えば、小単元「天皇中心の国づくり」では、「聖徳太子たちは、どのようにして天皇中心の国づくりを進めたのだろうか」という学習問題の解決に向けて、立てた予想について確かめようと自ら資料を探す姿が多く見られたり、東大寺の大仏づくりに関する複数の資料を関連付けながら、当時の人々にとっての仏教という存在について考えたりする姿が見られた。

戦国時代に関する意識調査（8月実施）では、約85%の児童が「これまでに、戦国時代という言葉聞いたことがある」と回答している。織田信長や豊臣秀吉といった戦国大名の名前を知っており、戦国大名を題材にした漫画を読んでいる児童もいた。また、意識調査の中で三つの資料（①「戦国の世の中で起きた主な戦い（150年間で起きた戦いのうち、特に有名な戦国大名の戦いや、戦いが起きた地域に偏りが出ないように教師がまとめたもの）」、②「長篠合戦図屏風の一部分を切り取ったもの」、③「戦いに用いられる武器や防具、馬などの値段（書籍「戦のねだん」から引用し加筆したもの）」）を与え、疑問に思ったことや自分の立てた予想を記入させた。すると、資料①からは「なぜ、日本各地でこんなに争いが起きたのだろうか」「何のために争いをしていたのだろうか」という理由や目的に関する疑問が、資料②からは「知恵を使い、柵を利用して守っていると思う」という戦い方に関する予想が、資料③からは「なぜ鉄砲は高いのだろうか」「たくさんの武器などを準備するためのお金はどうしたのだろうか」という戦国大名の経済力に関する疑問などが出された。特に、戦う目的や理由についての疑問は、多くの児童から出された。戦国時代という言葉は多くの児童が聞いたことがあるものの、「戦う目的・理由」や「戦国の世の様子」までは知らないことが分かった。

5 指導観

本小単元では、意識調査で明らかになった児童の実態や疑問を生かして小単元を構成し、児童が追究意欲を持って自ら学習を進められるようにしていく。その際、児童が戦国時代の魅力として感じている「独自の取組や魅力的な人間性をもつ様々な戦国大名がいた」ということを生かすため、複数の戦国大名の中から自分が調べたい戦国大名を選択して学習を進めることができるように、小単元を構成していく。そして、「もっと資料を調べたい」「このことはみんなで話し合いたい」という児童の反応を踏まえて、小単元の中で個別最適な学びと協働的な学びを柔軟に組み合わせるようにする。

第1時では、事前調査で出された「何のために争いをしていたのだろうか」という疑問を提示する。一人一人に予想を立てさせ、その予想を全体で交流する中で、学習問題「戦国大名たちは、どんな力で戦国の世の中を一つにまとめようとしたのだろうか」を設定していく。第2時で、戦国大名たちが争っていた当時の時代背景を捉えさせた後、第3時から第6時では、戦国の世の統一に向けた織田信長と豊臣秀吉の取組、そして自分が選んだ戦国大名の取組について調べさせる。その際、それぞれの取組の目的や意味、つながりに目を向けさせる問い返しを意図的に行い、再度資料に戻って考えようとする姿を引き出していく。毎時間の学習の最後には、調べたことを踏まえて学習問題に対する自分の考えを表現させる。調べたことはオンラインプレゼンソフトに記入させ、互いに関連できるようにし、友達と協力しながら学習を進めていくことができるようにする。第7時では、これまでの学習を通して児童が考えてきた「〇〇力」を振り返らせ、「戦国の世の中を一つにまとめるために必要だった力は何だろうか」というテーマについて話し合わせる。その際、理由や根拠を明確にさせたり、これまで調べてきた資料に戻って社会的事象について多面的・多角的に考えさせたりする問い返しを意図的に行う。小単元の最後となる第7時では、小単元を通して自ら資料と向き合ってきた成果として、一人一人の児童から調べたことを根拠にした自分なりの考えが出されたり、考えをより明確にしたり見直したりするために再度ノートや資料を見直そうとする姿が見られたりすることを目指す。

6 研究主題との関連

以下の手立てを講じることで社会的な見方・考え方を働かせる個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、「学習問題の解決に向けて自ら資料と向き合う児童の育成」を目指す。

(1) 児童の疑問を生かした単元構成の工夫

第1時では、疑問に対して予想させたり、学習問題の解決に向けた学習計画を立てさせたりすることで、一人一人が見通しや目的意識をもって、その後の資料を調べる学習に取り組めるようにする。第5、6時では、調べたい戦国大名を選択させ、個人で調べる時間を設定する。その際、黒板に名前を書いたマグネットを貼らせ、友達がどの戦国大名を調べているのか分かるようにするとともに、調べたことをオンラインプレゼンソフトに記入させ互いに閲覧できるようにすることで、必要に応じて友達と協力しながら追究活動に取り組めるようにする。また、個別最適な学びを支える環境づくりとして、図書室や市内図書館から関連書籍を準備し、手に取って読めるようにする。

(2) 社会的事象について多面的・多角的に考えさせる教師の問い返し

以下のような問い返しを行うことで、児童が再び資料に戻り、社会的事象について多面的・多角的に考えることができるようにしたり、歴史を身近に感じられるようにしたりする。

① 社会的事象の意味を問う

例：児童「織田信長は、関所をなくして人々が移動しやすくなるようにした」

教師「人々が移動しやすくなると、何が変わるのだろうか」

例：児童「豊臣秀吉は、刀狩で武士と百姓・町人に身分を区別した」

教師「豊臣秀吉は、どうして人々の身分を区別しようとしたのだろうか」

② 戦国大名の取組を比較させる

例：児童「織田信長と豊臣秀吉は、それぞれ色々な取組をしていたことが分かった」

教師「織田信長と豊臣秀吉がやったことを比べたとき、似ているところはどんなところだろうか」

例：児童「他の戦国大名も、戦国の世の中を一つにまとめることを目指して色々なことに取り組んでいた」

教師「織田信長や豊臣秀吉がやったことと、自分が調べた戦国大名がやったことを比べたとき、似ている所はあるか」

③ 調べてきたことを総合させ、自分の考えをもたせる

例：児童「戦国大名は、戦国の世の中を一つにまとめることを目指して色々なことに取り組んでいた」

教師「今まで調べてきたことやまとめてきた自分の考えを振り返って、戦国大名が戦国の世の中を一つにまとめるために必要だった力は何だと思うか」

④ 調べたことと現在の生活を比較させる

例：児童「戦国大名は、どうしてこのようなことをしたのだろうか」

教師「戦国大名がやったことは、私たちが生きている今の時代で考えると、どのようなものと言えるだろうか」

(3) 教師の見取りや児童同士の関わりによる社会的な見方・考え方の価値付け

単元の始めに、比較や関連付けをしながら学習に取り組んでいる姿や発言を例示し、その観点で友達の良さを見付けさせる。見付けた良さは、一単位時間の学習の振り返りにおいて発表させたり、オンラインアンケートフォームで共有させたりしていく。そうすることで、資料から読み取ったことを基にして、多面的・多角的に考えようとする姿を引き出していく。

7 小単元の指導と評価の計画

(1) 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①資料を読み取り、日本とヨーロッパ諸国が、キリスト教や南蛮貿易で関わっていたことを理解している。 ②それぞれの戦国大名が、政策や法令等の整備を通して、戦国の世の統一を実現しようとしたことを理解している。	①天下統一に向けた戦国大名の取組について問いを見だし、一つ一つの取組について、その目的や意味など、考えたことを表現している。 ②複数の資料から読み取ったことを関連付けながら、それぞれの戦国大名が行った取組の特徴や、学習問題について考え、表現している。	①天下統一に向けた戦国大名の取組について、予想や学習計画を立てたり、自らの学び方を振り返ったりしながら、学習問題を解決しようとしている。

(2) 小単元の全体計画（7時間扱い 本時7／7）

時	主たる学習活動	個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実	評価規準
1	事前調査の資料を基にして、長篠合戦図屏風を見て戦国の世について話し合い、学習問題を設定し、学習計画を立てる。 戦国大名たちは、どんな力で戦国の世の中を一つにまとめようとしたのだろうか。	【個別最適な学びを支える環境づくり】 学校の図書室や市内図書館から、戦国大名に関する書籍を準備し、いつでも手に取って読めるようにする。 【協働的な学びを促す環境づくり】	天下統一に向けた戦国大名の取組について、学習問題を考えようとしている。【思判表①】 疑問に対して予想をしたり、これからの学習計画を立てようとしていたりしている。【態度①】
2	戦国の世におけるヨーロッパ諸国との関わりについて調べ、時代背景を捉える。	・選んだ戦国大名について調べる学習において、黒板に名前を書いたマグネットを貼らせることで、どの戦国大名を調べているのか互いに分かるようにする。 ・記入したオンラインプレゼンソフトを、互いに閲覧できるようにする。	資料から、ヨーロッパ諸国との関わりの様子を読み取り、その特徴を理解している。【知技①】
3	戦国の世の統一を目指して織田信長が取り組んだことを調べ、その取組の特徴について話し合う。	【必要感から次の学びを選択させる一単位時間ごとの学習のまとめ】	資料から、戦国の世の中の統一を目指して行った織田信長の取組を理解している。【知技②】 楽市・楽座や城下町の整備といった取組の目的について考え、表現している。【思判表①】
4	戦国の世の統一を目指して豊臣秀吉が取り組んだことを調べ、その取組の特徴や織田信長の取組との共通点や相違点について話し合う。	第3時から第6時の学習において、学習問題「戦国大名たちは、どんな力で戦国の世の中を一つにまとめようとしたのだろうか」に対する自分の考えを毎時間まとめさせる。その中で、「果たして今の自分の考えは良いものなのか、個人で資料をもっと調べたり、友達の考えを聞いたりして確かめたい」という思いを引き出し、次の学習活動を選択できるようにする。	資料から、戦国の世の中の統一を目指して行った豊臣秀吉の取組を理解している。【知技②】 織田信長と豊臣秀吉の取組を比較し、その共通点や相違点について考え、表現している。【思判表②】
5 6	選んだ戦国大名について、戦国の世の統一を目指して行った取組を調べてまとめる。		資料から、全国各地の有力大名が行った取組を理解している。【知技②】 織田信長や豊臣秀吉の取組と比較しながら、自分が調べた戦国大名の取組の特徴について表現している。【思判表②】

7 本 時	これまで学習した戦国大名の取組から、戦国の世の統一に必要な力は何か考え、話し合う。学習問題について自分の考えを表現する。	【協働的な学びを促す教師の見取りと話し合い】 「戦国の世の中を一つにまとめるために必要だったと思う力」について個人で考えさせた後、学び合いへの必要感を見取り、班、全体で話し合わせていく。	戦国の世の統一に向けた戦国大名の力について、軍事面や経済面、領地支配等に触れながら、自分の考えを表現している。 【思判表②】
-------------	--	--	---

8 本時の計画

(1) 目標

戦国の世の統一に必要な力は何か話し合うことを通して、学習問題に対する自分の考えを表現することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕

(2) 本時の指導に当たって

はじめに、第6時までの学習において児童が考えた「戦国大名の〇〇力」を全体で共有する。そして、「どの力が戦国の世の中を一つにまとめるために必要だったと思うか」と問い掛け、本時のめあてを設定する。必要だったと思う力について、その順番を個人で考えさせワークシート（ダイヤモンドランキング形式）に記入させる。その後、児童の様子から「友達の意見を聞きたい」「友達はどんな力を一番にしているのだろう」といった、他者との学び合いへの必要感を見取り、班、全体の順に話し合わせていく。班で話し合っているときは、順番を決める上での迷いとして出されている意見の見取りを大切に、その後の全体での話し合いにおける意見交流のきっかけになるようにしていく。また、児童の意見に応じて再び資料に戻って考えさせる問い返しを行い、戦国大名の取組を多面的・多角的に捉えることができるようにする。最後に、学習問題についての自分の考えを表現させる。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	◎指導上の留意点 □評価
導入 5分	1 これまで調べてきた戦国大名の主な取組について振り返る。 児童から事前アンケートで出された「戦国大名の〇〇力」の提示 ・武力・経済力・外国との関わり力・部下をまとめる力・まちづくり力 2 本時のめあてをつかむ。 戦国の世の中を一つにまとめるために必要だった力は何だろうか。	一斉 一斉	◎これまで調べてきた戦国大名の主な取組を内容ごとにまとめた掲示物を振り返らせると共に、第6時後に実施した事前アンケートで児童から出された「戦国大名の〇〇力（調べてきた戦国大名の取組を根拠に考えさせる）」を共有させ、本時のめあてを確かめさせる。
展開 27分	3 めあてについて個人で考える。 ○必要だったと思う力を順番に並べましょう。 ◆一番は武力だと思う。他の戦国大名との戦いに勝てないと、世の中は統一できない。 ◆経済力が一番だと思う。織田信長は商業都市を、豊臣秀吉は鉱山を支配していた。 4 めあてについて班内で話し合い、ワークシートにまとめる。 ◆経済力、次に武力というのは、みんな同じ意見だったね。 ◆私は武田信玄を調べていたのだけれど、洪水に強いまちをつくっていたよ。まちづくり力が大事ではないかな。	個別 班	◎導入で共有した「〇〇力」の中から、必要だと思う順番にワークシートに記入させる。 ◎班を回り、どのような意見が出されているのか、どのような迷いがあるのかを見取り、全体で共有する際の意図的指名や全体への問い掛けに生かしていく。

[illegible]

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる（A）	努力を要する児童（C）への手立て
思考・判断・表現	戦国の世の統一に向けた戦国大名の力について、軍事面や経済面、領地支配等に触れながら、自分の考えを表現している。	戦国の世の統一に向けた戦国大名の力について、一つ一つの取組の意味やつながりを多面的・多角的に捉えながら、自分の考えを表現している。	意見がまとめられた板書を一緒に振り返りながら、「たくさんのライバルに勝つためにどんな力が必要だったと言えるかな」と問い掛け、対話をする中で、自分の考えを表現できるようにする。

(5) 準備物

- ① 教師：教室用ノートPC、これまでの学習内容をまとめた掲示物
② 児童：ノート、教科書、資料集、個人用タブレット端末

(6) 板書計画

戦国の世の中を統一するために必要だった力は何だろうか。									
軍事力		経済力		まちづくり力		外国との関わり力		部下をまとめる力	
鉄砲隊 騎馬隊		織田信長 豊臣秀吉		城下町の整備		鉄砲の入手		分国法（きまり）	
戦に勝つ		商業都市の支配 鉱山の支配		武田氏		南蛮貿易で栄える			
領地が広がる		楽市・楽座 検地		治水で人々の暮らしが安定					
班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番	班で考えた 「〇〇力」の 順番